

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【第1学年】 ○基礎・基本の学習の必要性を理解し、間違い直しや練習に根気よく取り組むようになった。特に表現に関しては、話すことも書くこともできるようになり、力の向上が見られる。 ▽本人なりの考えの表現はできるが、それが正しい内容であるのか、確かめながら学習に取り組むまでには至っていない。	【第1学年】 ●基礎・基本の学習内容が定着したら、分からないことを調べるなど、身に付けた力を活用する学習へとステップアップさせる。 ▼協働的な活動や対話を通して、自分の考えに固執せず、多くの考えを取り入れて、多面的な視野をもって考えを表現できるようにする。
【第2学年】 ○国語の授業や家庭学習で音読に取り組むことで、平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をすらすらと読めるようになってきた。 ○生活文、紹介文や説明文等を順序立てて書く活動に取り組むことで、自分の体験や考え、説明を短い文章で表現する力が付いてきた。 ○デジタルドリルや授業での計算練習を積み重ね、2桁や3桁の筆算など2年で必要な計算能力が身に付いてきた。 ▽既習の漢字の定着がまだ不十分である。 ▽文章の内容を正確に理解する力が不十分で、算数の文章題では、思い込みで式を立ててしまうことがある。	【第2学年】 ●引き続き、音読指導を定期的に行い、文章の内容を理解する力を伸ばしていく。 ●生活文、紹介文や説明文等を順序立てて書く活動を引き続き行い、書く力を伸ばしていく。 ●デジタルドリルや計算プリントなどで何度も問題に取り組み、計算力をさらに向上させる。 ▼文章を書く際、既習漢字を活用するよう指導するとともに、デジタルドリルや漢字プリントに取り組ませ、既習漢字の正確な定着を図る。 ▼文章題を解く際には、線を引き、何を聞かれているのか、どのように答えるのかを確認する習慣を身に付けさせ、文章内容の正確な理解ができるようにする。
【第3学年】 ○読書の時間を十分に確保し、辞書の活用を進めたことで、語彙が着実に増え、作文の表現が豊かになってきた。 ○デジタルドリル等の活用で漢字の書き取りの定着を図ってきた成果が表れ、漢字テストの平均点が向上した。 ○算数では基礎・基本の定着を図り、わり算や大きい数のたし算の筆算などが正確に計算できるようになった。 ▽国語では物語文、説明文ともに内容把握は進んだが、自分の考えを分かりやすくまとめる力はまだ不十分である。	【第3学年】 ●引き続き読書の時間を十分に確保して、語彙を増やす。 ●引き続き小テストやデジタルドリルを活用し、漢字の定着を図る。 ●算数でもデジタルドリルを活用し、計算能力を更に高めていく。 ▼定期的に日記を書く活動を行い、自分の考えを分かりやすくまとめて文章を書く力を向上させる。

▽図形については、円の描画で技能に個人差があり、引き続き根気強く取り組む必要がある。	▼習熟度別算数のクラス分けを工夫し、十分な個別指導を行う。また、計算問題、図形の描画などはプリントも活用して反復学習を行い、確実に身に付けるようにする。
【第4学年】 ○漢字の書き取りは、練習時間を確保したり、同じ問題を2回以上繰り返してテストしたりすることで定着してきた。また、国語辞典を使って意味調べをする時間を確保したり、短文づくりに取り組んだりしたことで、語彙力が広がってきた。 ▽算数の図形領域において、学習計画を当初の予定より2時間程度多く計画し、確実に身に付けさせるようにする。	【第4学年】 ●引き続き、漢字の反復練習に取り組ませ、定着を図る。また、どの教科でも毎時間、振り返りを書く習慣を付け、文を書くことに慣れさせる。 ▼引き続き、理解度に応じて放課後に短時間で補習をしたり、算数の授業時間に達成感のあるプリントを用意したりして、意欲的に学べるようにしていく。
【第5学年】 ○授業にグループ学習を取り入れたことで、児童同士の対話が活発になり、互いの意見を聞き合いながら考えを深める姿が見られるようになった。 ○算数の学習において、児童が一つの問題に対して複数の考え方を試す姿が見られた。自分たちの言葉で考え方を整理し、まとめる力が育ってきた。 ○理科や社会の学習において、資料を読み取る力が身に付いてきた。図や表、写真などから必要な情報を的確に捉え、自分の考えに結び付けて説明する姿が見られるようになった。 ▽学力に個人差が見られ、特に学習に困難を感じている児童の中には、学習に対して消極的な姿勢を示す様子が見られた。 ▽資料の内容を読み取ることはできているが、そこから自分の考えを広げたり深めたりする力が、まだ不十分である。	【第5学年】 ●引き続きグループ活動を取り入れ、役割分担や話し合いのルールを明確にすることで、より深い対話を促す。 ●複数の考え方を共有する場を設け、友達の考えを比較・評価する活動を通して、思考の幅を更に広げる。 ●今後は図や表、写真などから得た情報をもとに、意見交換や発表の機会を増やし、思考の深まりや多様な視点の獲得を促していく。 ▼個別支援や学習意欲を高める工夫を通して、全ての児童が前向きに学習に取り組めるような環境をつくる。 ▼資料をもとに「なぜそう思うか」「他にどんな見方があるか」など、問い返す活動を取り入れ、思考を深める支援を行う。
【第6学年】 ○書く過程でつまづいた児童には教師が個別に声をかけ、具体的な助言や励ましを行うことで、児童は安心して、自信をもって取り組むようになった。 ○自分が書いた文章を友達や教師に読んでもらう機会を設けることで、達成感や承認体験を得られ、自信につながった。 ○自分の考えを筋道立てて説明する力が育ち、「なぜそう考えたのか」を言語化できる児童が増え	【第6学年】 ●書いた内容を否定せず肯定的に受け止め、個に応じた支援をすることで、自己表現への自信を育む。 ●引き続き自分が書いた文章を友達や教師に読んでもらう機会を設けたり、友達同士で読み合ったりする活動を通じて、他者に伝える楽しさや達成感を味わわせる。 ●解答に至るまでの過程を言葉で説明させる活動を取り入れ、筋道を立てて説明する力の向上を図

た。 ○他の児童の考え方に触れることで、多様な視点を受け入れ、自分の考えを深めることにつながった。 ▽文章を書くことへの苦手意識が強く、考えをまとめるときに時間がかかってしまうことがある。	る。 ●今後もグループ活動を取り入れ、友達同士で考え方を共有し合い、他者の視点を取り入れることで表現の幅を広げる。 ▼国語だけでなく、各教科で自分の考えや振り返りを書く活動を行い、相手に伝わりやすいまとめ方が身に付くよう指導・助言する。
---	---